

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2570100632		
法人名	有限会社 ミテラ		
事業所名	洛和グループホーム大津		
所在地	滋賀県大津市長等3丁目6-16 (電話) 077-511-4025		
評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年9月17日	評価確定日	平成20年11月5日

## 【情報提供票より】(平成 20年 7 月 16 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算	6.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	2 階建ての	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	有( ) 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 200000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有( ) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1677	円

### (4) 利用者の概要( 7月 16日現在)

利用者人数	7 名	男性	3 名	女性	4 名	
要介護1		名	要介護2	3	名	
要介護3	3	名	要介護4		名	
要介護5	1	名	要支援2		名	
年齢	平均	84.5 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	洛和会音羽病院
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

洛和会ヘルスケアシステムの一つである当該ホームは、1階に訪問介護ステーション、通所介護、介護支援事業所が併設されており、2階にグループホームがあります。駅から近い住宅街に立地し、お寺や遊歩道、商店が近くにあり、住みやすい環境が整っています。職員の離職はなく定着しており、利用者一人ひとりとかかわることで、情報を収集し、センター方式を十分に活用し、ケアに活かされています。尊厳を大切に利用者と同じ時間を過ごし、同じ目線で利用者の立場になって考え、状況の把握をすることで思いにそったケアが出来るように、管理者や職員は、連携を図りながら、常に向上心を持ち続けている意欲的なホームです。また、利用者は、入居前の生活を大切に生き活きと楽しみや役割を持って過ごされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった、地域との交流については、目標や改善計画を立て、地域の行事や自治会の掃除に参加したり、防災について話し合い協力を得ました。また、家族等への報告は、個人情報保護を踏まえた上で、新聞の発行を考えています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	今回の自己評価は、常勤職員に少しずつ記入してもらい、管理者がまとめたものを非常勤職員に見てもらいました。その結果を職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいます。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	利用者、家族、長等学区協定会長、地域包括支援センター、民生委員ホーム管理者、職員などが参加する運営推進会議が2か月に1回開催されています。会議時には、議題を載せたレジュメを配布し、テーマにそって話し合い、また、入居状況や活動報告も話しています。地域からは情報をもらい、行事に参加できるようにしています。また、往診医にも参加を呼びかけています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	ホーム玄関に意見箱を置いています。来訪時や運営推進会議に家族の参加があり話しやすい関係作りに努めています。法人からの年に2回アンケートの実施があり、家族からの意見や相談には、すぐに対応できる体制が整っており、記録に残し職員で共有しています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入っています。地域や自治会の掃除、行事に出来るだけ参加できるように努力しています。散歩時や商店街での買い物で挨拶を交わしたり、防災訓練に参加して、地域との協力体制を構築しています。また、まちなか交流館のイベントを見学することもあり、交流できるよう努力しています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	洛和会の法人としての理念とグループホーム独自の「みんなで楽しく笑顔で」を玄関に掲げています。地域に溶け込んで生活していく中での理念を考えていますが、明確な文書にはされていません。	○	利用者が地域の中で暮らしていくことの意義を職員間で話し合い、明確な文書にされることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、利用者とかかわりの中でいきずまった時、理念を振り返っています。笑顔を絶やさないと、カンファレンスなどでも話し合い、理念を共有し、実践に取り組んでいます。また、介護計画にも反映させています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っています。地域や自治会の掃除、行事に出来るだけ参加できるように努力しています。散歩時や商店街での買い物で挨拶を交わしたり、防災訓練に参加して、地域との協力体制を構築しています。また、まちなか交流館のイベントを見学することもあり、交流できるよう努力しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、常勤職員に少しずつ記入してもらったものを、非常勤職員に見てもらい、管理者がまとめて作成しました。職員は、外部評価の意義を理解し、話し合い、サービスの向上に努めています。	○	非常勤職員にも、自己評価票を配布し、項目の意義を理解しながら考えや意見を取り入れ、全職員で取り組まれることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、長等学区協連会長、地域包括支援センター、民生委員ホーム管理者、職員などが参加する運営推進会議が2か月に1回開催されています。会議時には、議題を載せたレジュメを配布し、テーマにそって話し合い、また、入居状況や活動報告も話しています。地域からは情報をもらい、行事に参加できるようにしています。また、往診医にも参加を呼びかけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大津市のアンケートに協力し、月に1回の大津市連絡会に参加しています。運営推進会議録を市に報告し、大津市として夜間体制の取り組みの考えや状況などを聞き情報交換しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、直接コミュニケーションを取り、ホームでの様子を伝えています。毎月のお便りと共に状況報告やバイタルチェック表、金銭管理の出納帳のコピーと領収書を送付し、受診の内容は電話で伝えています。今後、グループホーム新聞を発行したいと考えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に、意見箱を設置しています。法人の取り組みとして、年に2回アンケートを実施し意向の把握に努めています。また、来訪時や運営推進会議の家族の参加で話しやすい雰囲気作りに努めています。相談や意見などは、すぐに対応できる体制が整っており記録に残し職員で話し合い、共有しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者はなく馴染みの関係が出来ています。管理者は、職員の配置人数を多く取ることで、職員同士のコミュニケーションや連携を図り情報の共有をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が管理する職員ひとり一人の研修計画があり、経験年数に応じて参加できるようになっています。参加した職員は、研修記録、報告書を残し、回覧し伝達研修をしています。職員の学ぶ意欲も高まり、興味のある項目は参加できるようになっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しています。管理者と介護職員とを分けての交流があり、情報交換があり、参加できなかった時には、報告書が届くようになっています。また、今まであったグループホーム同士の交換研修の要望があり、目的を持って参加できるように検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は、出来るだけ家族や利用者に見学に来てもらっています。利用者の家を訪問し生活環境を見たり、会話の中で趣味や好みのもの等を聞き多くの情報を得ています。また、入居後は、出来るだけ同じ職員がかかわるようにしながら、利用者を理解し、環境に馴染んでもらえるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に生活することで、コミュニケーションを大切にし、利用者を理解、尊重して何でも話し合える関係作りに努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者とのかかわりの中で観察しサインを見逃さず状況に応じての行動を把握するように努めています。全職員でカンファレンスを行い、センター方式や法人独自の分析シートを使用し、希望や意向を聞きながら把握できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式や法人独自のアセスメント、24時間ケアシートなどを使用し、家族や利用者の希望、意見などを取り入れ、ほとんどの職員が参加するカンファレンスで話し合い介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の見直しや状態に変化がある場合は、随時見直しをしています。職員は、利用者とかかわることで状況の把握をし、介護日誌を参考にカンファレンスで話し合い介護計画に反映できるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じての通院や美容室への付き添い、銭湯など利用者ひとり一人の希望に応じて個別の支援をしています。1階のデイサービスのイベントやボランティアの来訪時などにも参加しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続しています。地域の医師の往診が月に1回あり、24時間相談や受診できる体制を持っています。また、訪問看護が週に1回あり、相談や24時間対応ができるようになっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に法人としての指針を説明し、同意を書面で交わしています。実際に重度化した利用者を迎えた経験もあり状況に応じて主治医や家族との話し合いを持ちながら支援しています。また、法人から緩和ケアについての研修があり、職員で共有しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の声かけや入浴時には、同姓介助で入浴準備から更衣するまでを同じ職員が介助するなどプライバシーに配慮した対応をしています。個人情報については、全職員が研修を受けています。また、記録物は、鍵付きのロッカーに保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前からの生活リズムやペースを大切にしています。朝食時間や入浴時間も一人ひとり利用者に合わせて希望にそって支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から利用者と一緒に考えています。ひとつの材料からできるメニューを考え、座ってでもできる準備や台所にいるだけでも雰囲気味わってもらえるように声かけし出来ることに携わってもらっています。また、職員は、利用者と同じ物を食べ、自然な流れで食事介助や声かけをしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は、午後から20時位となっています。1日に2回入られる利用者もあり、その日の希望にそって入れるようにしています。入浴拒否傾向の利用者には、職員の声かけや手早く準備をしてタイミングを合わせるなど工夫しています。また、気分を変え銭湯へ職員と出かけ楽しめることもあります。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字やクロスワードパズル、歌を唄ったり男性の利用者も調理の参加、銭湯へ行くなど気晴らしや楽しみの場を提供しています。また、利用者の得意な事に力が発揮できるように、生き活きとした場面が作れるようその時の状況に応じての支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出かけています。ドライブや銭湯に出かけ一人ひとり目的に合わせて外出できるように、希望にそって支援しています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ鍵は掛けています。ドアを開けるとすぐに階段のため、センサーで分かるようにしています。日中は、見守りを怠らず安全面に配慮しながら、希望があればいつでも出かけられるようにしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2か月に1回避難訓練をしています。計画、実施、報告書を残して、1階にあるデイサービスと一緒に避難訓練をし、職員で夜間想定や危険個所の改善策などを話し合っています。また、地域との協力体制も構築しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量は記録しています。水分摂取量は必要な利用者のみ記録しています。法人のメニューを参考にアレンジし、いろいろな食材を使い工夫しています。キザミ食やペースト、ムース、ミキサー食などにも対応しています。また、法人の管理栄養士に献立をチェックしてもらい、アドバイスをもらっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、ひと休みできるようにソファが置いてあり、料理のにおいや生活感がわかり、居心地よく過ごせるように工夫しています。また、屋上では、ティタイムを設けたり、野菜や花を植え活用できるように考えています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には、利用者一人ひとりの表札があり、ベッドやテレビ、写真、ぬいぐるみ、今まで使っていた家具やタンス、大切にしていた仏壇などを持ち込んでもらい家族と相談し、居心地よく過ごせるよう工夫しています。		